

### 【自然環境】

面積：27.66km<sup>2</sup>の諏訪瀬島は、鹿児島県のトカラ列島に属し、十島村では中之島に次いで2番目に大きい島である。御岳（799m）は過去に幾度となく大噴火を繰り返しており、今も活発に活動している。しかし、そんな厳しい自然状況でも北西部の溶岩台地にはマルバサツキが群生し、春になれば一面ピンクの花を咲かせる。

気候は暖かく、亜熱帯と温帯の交差地域であるため、年平均気温は20度である。温暖な気候で、ほとんどの地域が無霜地域である。

### 【社会的背景】

人口は十島村の中で最も少なく、52人だが、高齢者の割合は低い。

島と鹿児島港間は、村営船「フェリーとしま」が約9時間45分で連絡している。港湾は、定期船が寄港する南東側の切石港と南西側の元浦港がある。島の南部には飛行場跡地があり、現在、場外離着陸場として利用されており、枕崎、鹿屋からヘリコプターによって約55分で連絡できる。

島内には3軒の民宿がある。来島者の多くは釣り客等である。

島の歴史は古く、奈良時代には人が住んでいたようだが、入植による奄美大島の影響や、昭和40年代に県外からの移住者の文化的色彩が強いようである。文化10年（西暦1813年）の大噴火でほとんどの人家は消滅し、全島民が避難したため、約70年間は無人島となった。明治期に入り、奄美大島出身の藤井富伝らが入植し開拓した。

### 【住民の生活】

牛やヤギなどの畜産業に従事すると同時に、島の男の人達は船で漁に出ている。実際、夕食はご主人が釣った魚をいただいた。島でしか食べられない魚でとてもおいしかった。

### 【医療供給体制】

諏訪瀬島には、小さな診療所はあるものの、歯科治療が行える診療所はなかった。今回も診療所の隣の公民館で手動のチェアを置いて、タービン・エンジン・バキュームなどは、持ち運べる簡易歯科治療の機械を使った。また、並行して、こじか号でも歯科診療を行った。

【実習概要】

日付	内容
10/18	小児の歯科健診（5人） カリエス治療（コンポジットレジン充填） プラークコントロールレコード、スケーリング、プロフェッショナル ギースクリーニング（3人） スケーリング・ルートプレーニング（2人） 知覚過敏治療 義歯修理 X線撮影

【振り返り記録】

- ・想像以上に子供がたくさんいて驚いた。
- ・子供達の定期検診では問題点が無く、驚いた。お母さんがしっかりしているということがよく分かった。また、こうして先生方が定期的に健診を行い、指導を行っているからだろう、とも思った。
- ・完治をするには、本土での治療が必要となってくる場合は、島と本土とはそう簡単に移動できる訳ではないので、島でできることはやっておいておく。また、長期治療の場合、前期治療と後期治療に分かれる。
- ・行える治療と行えない治療とがあるが、限られた道具・材料・設備で、できるだけ患者さんの主訴を解決しようとし、では、解決するにはどうすればいいかということを経験し、考えなければならぬということを教えてもらった。普段の治療の思考力ともまた違った思考力が必要だと思った。
- ・今回は台風の影響で、元々短かった滞在期間が約一日ともっと短くなったのであまり島の人たちと触れ合えなかったのが残念である。また、同時に、島の自然を味わう時間もほとんどなく、残念であった。御岳のふもとまで散歩したのと、夜、道に寝転がり満天の夜空を見たのと、出港前の朝の少しの時間で牧場に行ったり飛行場に行ったりした。
- ・今回は時間がなかったため、衛生士さんたちともあまりしゃべれなかったのが残念である。衛生士さんたちは慣れているということもあるが、てきぱきと何でもこなしており、見習わなければならないことがたくさんあった。知覚過敏症治療に使う薬剤について説明してくれたり、いろいろ勉強になった。
- ・今回は時間がなかったため、今度機会があれば長期で離島診療を体感してみたい。